

L5/S 外側神経根障害に内視鏡手術を行った 3 例*

柴山元英 高橋育太郎 長尾沙織
川端哲 長谷川一行 太田弘敏

豊川市民病院整形外科

服部 敏

名古屋市総合リハビリテーションセンター整形外科

Key words: 腰椎外側ヘルニア (Far lateral lumbar disc herniation), 椎間孔外狭窄 (Extraforaminal stenosis), 内視鏡 (Endoscope)

はじめに

腰椎間板外側ヘルニアや神経根障害は、解剖学的特性から診断、治療が難しい。特に、L5/S の外側ヘルニア、神経根障害は、腸骨翼と仙骨に囲まれており、診断、手術が困難である。我々は 3 例を経験し、内視鏡手術で良好な結果が得られたので、その診断と手術について報告する。

対象と方法

症例は、56 歳、60 歳、62 歳の男性 3 例で、主訴は、強い下肢痛 2 例、間欠跛行 1 例であった。発症から手術までは平均 8 か月、手術後の経過観察は平均 4 か月である。

診断は、単純 X 線、MRI、椎間板造影+CT、神経根造影、神経根ブロックと、浅腓骨神経の知覚神経活動電位 (SNAP) の各種検査を用いた。

手術は、METRx system (Medtronic 社製) を用い、正中より約 5 cm 側方に縦 2 cm の皮膚切開

を加え展開し、横突起下方にチューブを挿入固定した後、横突起下部、椎間関節外側をドリルで切除した。また、仙骨翼も必要に応じて切除した。Posterior lumbosacral ligament を切離し、神経根を確認しつつ、神経根下のヘルニアを摘出した。1 例では、骨と靭帯の除圧のみであった。

結 果

各種検査の結果を表に示す。決め手になる方法はなかったが、総合的に判断して確定診断した。神経根ブロックと SNAP は、全例陽性であった。手術の平均時間は 4 時間 30 分、出血は少量であった。JOA スコアは平均 8.4 点が 24.0 点に改善した。合併症はなかった。

代表症例

症例 2: 62 歳、男性。

主訴: 左殿部より下肢への疼痛。

表. 各症例の診断法と診断結果

	症例 1/60 歳男性	症例 2/62 歳男性	症例 3/56 歳男性
MRI	×	○	×
椎間板造影 CT	○	○	×
神経根造影	○	○	△
神経根ブロック	○	○	○
SNAP	○	○	○
診 断	ヘルニア	ヘルニア	脊髄による圧迫
森山の分類	ヘルニア	椎間孔内絞扼	椎間孔外絞扼

○: 診断可能, △: 診断困難, ×: 診断不能

* Microendoscopic surgery for far lateral L5/S1 disc herniation.
本論文の要旨は、第 66 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会で発表した。